

本報告書の概要

1. 評価結果

本件評価は、2004年4月から2012年3月末までに派遣された日本からの国際緊急援助隊（JDR）のうち、救助チーム、医療チーム、及び専門家チーム（自衛隊部隊を除く）を対象とし、「政策の妥当性」、「結果の有効性」、「プロセスの適切性」、及び「外交の視点」を評価項目とした。評価の結果、JDRの活動は、すべての評価項目について高く評価できるものであった。

(1) 政策の妥当性

JDRの派遣及びその活動はODA大綱とODA中期政策に対する整合性、被災国・地域及び被災者のニーズとの整合性、国際社会の動向との整合性、他ドナーとの関連性、他国と比較した優位性を有しており、高く評価できる。

(2) 結果の有効性

救助チーム及び医療チームの活動は、人的被害の軽減のうち、特に精神的被害の軽減について極めて高く評価できる。また、国際社会・被災国・地域及び日本国内における広報・認知についても評価できる。更に、JDRの任務を超えた派生的成果が確認され、結果の有効性として極めて高く評価できる。

(3) プロセスの適切性

派遣要員登録体制、研修・訓練の実施、国際的な枠組みへの参加、携行資機材の管理・整備、派遣終了後の情報共有、外部評価体制、要請から派遣、被災地における活動において、プロセスの適切性は総じて高く評価できる。

(4) 外交の視点

特にアジアで発生した災害については、JDRは欧米諸国の国際緊急援助隊よりも短時間で到着できる。被災国政府等からの要請に対して速やかにJDRを派遣し、JDRが被災地で活動することは、日本の顔が見える外交の1つのツールになる。親日感情の醸成に貢献した事例もあることから、外交的な効果は極めて高く評価できる。

2. 提言

現在行われているJDRの活動の基本路線を継承・維持するとともに、その効果を最大限に引き出すために改善する方策として以下の6項目を提言する。

- (1) 被災者に寄り添った援助の継続・継承
- (2) 切れ目のない支援の継続・強化
- (3) 資機材調達体制の充実・維持(特に、現地リソースの活用)
- (4) 広報体制の検討・強化(特に現地メディアの活用)
- (5) 国際捜索・救助諮問グループ(INSARAG)への関与・国際協力の強化
- (6) JDRの効果を最大化することを念頭においた活動の実施